

MBC ラジオ『ここが聞きたい！ドクタートーク』2026.2.7

第 1188 回放送分『ACP』1 回目

ゲスト：大瀬克広ドクター



### 二見いすゞ

今月のドクタートークは「ACP アドバンス・ケア・プランニング」をテーマにお送りいたします。

お話は、鹿児島県医師会 大瀬克広（おおせ かつひろ）ドクターです。

大瀬さん、よろしくお願ひいたします。

大瀬克広Dr.

よろしくお願ひいたします。

### 二見いすゞ

アドバンス・ケア・プランニング、その頭文字をとって ACP なんですね。

初めてお聞きになったという方も多いかもしれません。

これはどういう意味なのでしょうか？

大瀬克広Dr.

「もしもの時のために自分の思いを家族や医療者と話し合っておくこと」  
という風に理解していただけだと、よろしいかと思います。

ACP アドバンス・ケア・プランニングは、

医療では、治療方法を決める時に特に重要なのですが、

一般的にはまだ認知度が低いのが現状と思われます。

そこで厚生労働省では「人生会議」という愛称をつけて、

広く一般に周知しようとしています。

### 二見いすゞ

事前に話し合っておくこと。とても大切ですね。

大瀬克広Dr.

はい。みなさんも少し想像してみてください。

「いま自分が一人暮らしをしていて、自宅で倒れて意識がなくなったとしたら」。

「こんな治療をしてほしい」「こんな医療を受けたい」と、

日頃あなたが考えていたとしても、

それを誰かに伝えておかなければ、あなたの希望は伝わりません。

## 二見いすず

だからこそアドバンス・ケア・プランニングが大切なんですね。

大瀬克広Dr.

アメリカの調査では、将来の医療のことをあらかじめ決めている人が、

3人に2人くらいいると言われています。

でも日本では、まだそこまで広がっていません。

実際、命の危険が迫ったとき、7割以上の方が、自分が受けたい医療についての希望を伝えられなくなってしまうのです

## 二見いすず

普段から自分がどのような医療を望むか？ということを

自分以外の誰かに伝えておかないと、

万が一のときに、自分が望まない治療をされてしまうこともあるということですね。

大瀬克広Dr.

はい。いま健康な状態だとそのようなことに意識が向かないと思いますが、

現在重い病気にかかっている、かかっていないに関わらず、

アドバンス・ケア・プランニング、人生会議をしていただきたいです。

## 二見いすず

この人生会議というのは、家族とするものなのでしょうか？

大瀬克広Dr.

もちろん家族としてもいいですし、

お一人の方は信頼できるご友人でも大丈夫です。

ご自身の価値観や考え方を大切にしてくれて、

ご自身の想いを託せる人と話してください。

## 二見いすず

予期せぬ突然の病気や事故などは、

年齢関係なく誰にでも起こることなので、

前もってそのような人は誰なのかを考えておくことは、とても大切ですね。

大瀬克広Dr.

ぜひこの機会に、自分の想いを託せる人は誰か、考えてみてください。

**二見いすず**

よくわかりました。

今月は「ACP アドバンス・ケア・プランニング」についてお送りしてまいります。

お話を鹿児島県医師会の大瀬克広ドクターでした。

大瀬さん、ありがとうございました。

大瀬克広Dr.

ありがとうございました。